



薬の伝言板 ～アレルギーと薬～

No.293 2022年4月

丸子中央病院 薬局

花粉が多く飛散する季節となり、目や鼻の症状や、皮膚のトラブルを抱えている人は多いのではないのでしょうか。

花粉症は、花粉に対して人間の体が起こすアレルギー反応ですが、人間には外部から侵入した異物を排除しようとする免疫機能があり、この免疫機能が過度に反応すると、アレルギー症状を引き起こします。アレルギーの原因となる物質（アレルゲン）は他にも、ダニ、ペットの毛、食物、薬などさまざまです。

アレルギーが原因の病気

- ・花粉症
- ・アトピー性皮膚炎
- ・薬剤アレルギー
- ・アナフィラキシーショック
- ・アレルギー性鼻炎
- ・食物アレルギー
- ・気管支喘息
- ・アレルギー性結膜炎
- など

アレルギーで生じる症状

- ・目：かゆみ、充血
- ・鼻：鼻水、鼻詰まり、くしゃみ
- ・口：違和感、腫れ
- ・皮膚：かゆみ、発赤、湿疹
- ・呼吸器：息苦しさ
- ・消化器：下痢、吐き気、嘔吐
- ・循環器：脈が速い、手足が冷たい、唇や爪が蒼白、血圧低下
- ・神経：意識がない、ぐったりしている



毎年つらい症状を引き起こす『花粉症』

くしゃみ、鼻水、鼻詰まりなど、風邪やウイルス感染症と似た症状がみられますが、違いは、**季節性**であること、**目のかゆみがある**、**鼻水が透明でさらさらとしている**、**発熱や筋肉痛がない**、などの特徴があります。

激しい症状がみられる人には、初期療法が有効です。初期療法とは、花粉飛散開始とともに、または症状が少しでもあらわれた時点で薬物療法を開始する治療法で、症状の重症化を抑えられます。



花粉症の予防には、感染症の予防と同様、マスクや手洗い・うがいによって、花粉の体内への侵入を防ぐことが大切です。

突然に起こる『アナフィラキシーショック』

薬や食物が身体に入ってから、短時間で起きるアレルギー反応です。全身に生じ、血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合をいいます。医師の診察を受けるまでの間、症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐため、**エピペン(アドレナリン自己注射薬)**が使われています。



薬によるアレルギー

通常、薬は重い副作用が出ないようにつくられていますが、体質によってごく一部の方は、特定の薬に対してアレルギー反応を起こしてしまうことがあります。以前、薬によって何か症状が生じたことがある場合は、受診時に医師へ伝えるようにしましょう。

また、卵や牛乳由来の成分を含む薬剤もあり、卵や牛乳にアレルギーがある人は注意が必要です。

卵の成分を含む薬剤の例

ムコゾーム点眼液、
インフルエンザ HA ワクチン

牛乳の成分を含む薬剤の例

ラックビーR、タンナルビン(タンニン酸アルブミン)、エンシュア、アミノレバン、リレンザ、イナビル

アレルギーへの対処法

第一に、アレルギーの原因物質を避けることです。症状が出たら、かゆみや炎症を抑える薬による対症療法を行います。

	種類	薬剤例
内服薬	抗ヒスタミン薬	アレグラ、タリオン、アレジオン、ルパフィン アレロック、クラリチン、ビラノア
	メディエーター遊離抑制薬	インタール、リザベン
	ロイコトリエン受容体拮抗薬	オノン、シングレア
塗り薬	ステロイド薬	デルモベート、アンテベート、リンデロン、 ネリゾナ、キンダベート、マイザー、ロコイド
	抗ヒスタミン薬	レスタミンコーワクリーム

※先発品名称。後発品もあり。

現在は、医療用医薬品と同じ成分の市販薬も多く販売されており、セルフケアの選択の幅も広がりました。眠気が出にくいものや服用回数が少ないものなど種類が様々であるため、迷ったら医師や薬剤師へ相談し、ライフスタイルに合ったものを選択しましょう。

アレルギーの根治はできる？

アレルゲン免疫療法という、アレルギーの根治を目指す治療があり、現在はスギ花粉症とダニアレルギー性鼻炎において治療が行えます。アレルゲンをごく少量ずつ投与することで、アレルゲンに対して体が反応しないようにします。注射して投与する皮下免疫療法が行われてきましたが、近年では舌の下から投与する舌下免疫療法が登場し、自宅で服用できるようになりました。

◆ スギ花粉症：シダキユア ◆ ダニアレルギー性鼻炎：ミティキュア、アシテア

薬や医療機器、医療材料にもアレルギー物質が含まれていることがあります。治療を受ける際、何かしらのアレルギーがある人は、必ず医療スタッフへ伝えましょう。

